

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第16週 (4/17-4/23) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		16週	15週	14週	13週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 4/10-4/16 15週
		注意報	4/17-4/23	4/10-4/16	4/3-4/9	3/27-4/2	
			16週	15週	14週	13週	
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	3 0.17	3 0.17	2 0.11	17 0.13
	咽頭結膜熱		3 0.17	1 0.06	2 0.11	0 0.00	23 0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	55 3.06	56 3.11	42 2.33	35 1.94	382 2.83
	感染性胃腸炎	○	158 8.78	144 8.00	153 8.50	126 7.00	889 6.59
	水痘		4 0.22	2 0.11	4 0.22	6 0.33	48 0.36
	手足口病		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	5 0.04
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	5 0.04
	突発性発しん		17 0.94	13 0.72	6 0.33	8 0.44	53 0.39
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 0.07
	流行性耳下腺炎		5 0.28	2 0.11	1 0.06	1 0.06	32 0.24
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		148 5.29	142 5.07	130 4.64	172 6.37	1,022 4.75
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	3 0.60	1 0.20	28 0.80
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 1.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(1件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第16週は、梅毒1件(12)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第16週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より若干減少し3.06となった。過去10年の同時期と比べると多い。

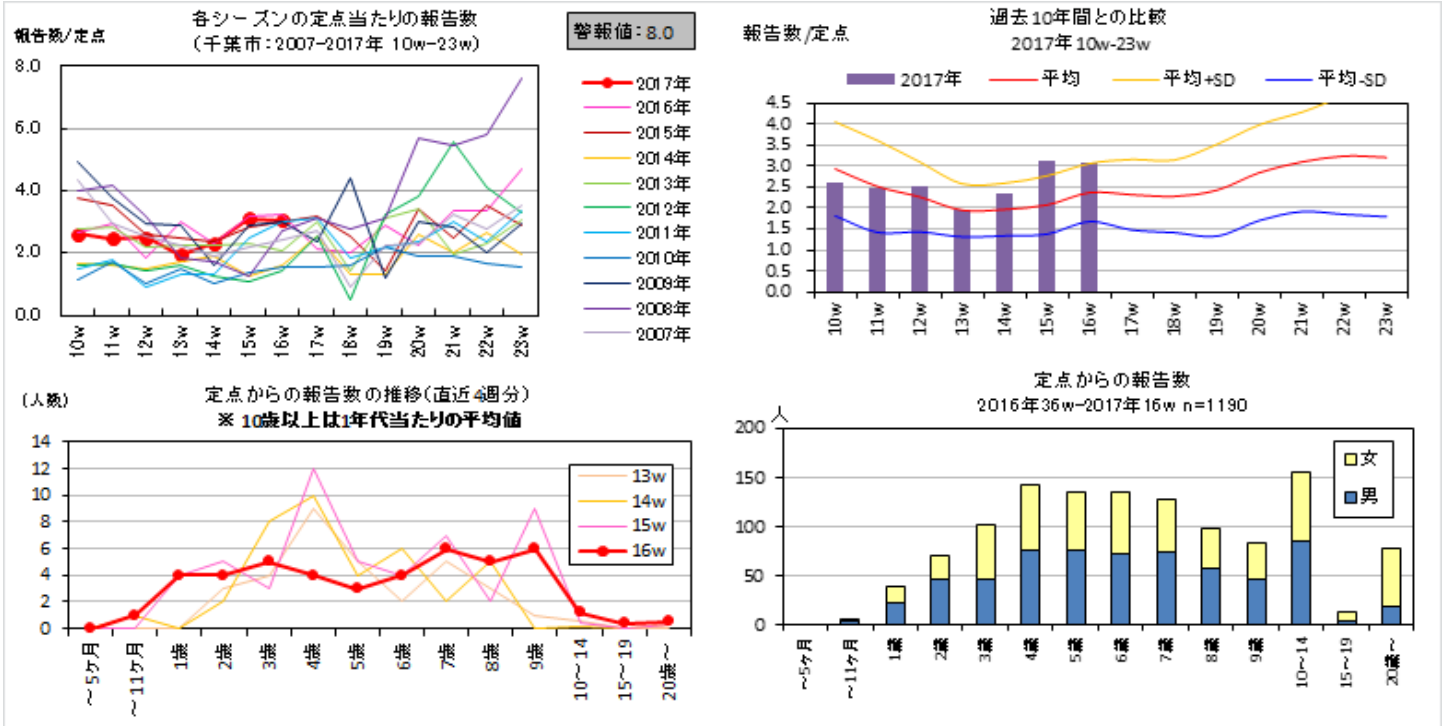
<感染性胃腸炎> 前週より増加し8.78となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの2017年第15週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、北海道で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第16週は前週より若干減少し3.06となりましたが、過去10年の同時期と比べると依然として多いままとなっています。区別の発生状況は、緑区(6.5/定点)で最も多く、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週から2017年第16週までの累積報告数(n=1190)によると、性別では男性が53.0%(631名)、女性が47.0%(559名)で、年齢階級別では10歳代前半(13.0%:155名)が最も多く、一年代当たりでは5歳及び6歳(共に11.4%:136名)、4歳(12.0%:143名)の順に多くなっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2017年第15週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、石川県、香川県、宮崎県で多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。

千葉市の2017年第16週は前週より増加し8.78となり過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(17.0/定点)で最も多く、同区の2歳及び10歳代前半で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週から2017年第16週までの累積報告数(n=4890)によると、性別では男性が54.1%(2647名)、女性が45.9%(2243名)で、年齢階級別では1歳(13.3%:652名)、4歳(12.3%:603名)、5歳(10.7%:525名)の順に多くなっています。

